

ハンザキ研究所の環境

キッキキキキキキ！とかケッケケケケケケ！！とハンザキ研を中心にして騒々しく叫ぶ鳥が現れた。研究所の東側から北・西・南と反時計回りに順番に高鳴きをしては移動することを繰り返している。正体を知りたく校舎のカーテンの隙間から観察していると、目の前を黒い帽子をかぶった済まし顔のヤマセミが通りすぎた。続いてもう一羽が行く！！ヤマセミのペアの縄張り宣言だったのだ。体育館の裏山の崖辺りが本拠地のようなのである。研究所の窓ごしにすぐ外にあるフェンスに止まっていた一羽と目が合った瞬間に、美しい純白の冠羽を逆立てて飛び去ったのは感激のシーンだった。後ろ姿や真下から見える羽毛の色は純白の印象が強く、普通郵便80円切手の黒色の多い図柄とは程遠い姿に見える。校内の整備をしながら北側の山で鳴いているなどか川面に突き出た西側の木の枝にいるなど楽しみが増えた。しかし、校舎の角を回った途端に驚いて飛び去っていくことも再々あり、私の存在が彼らを追い払ってしまう心配もある。順調に子育てまで進んでくれることを祈るしかない。それにしても、図鑑に示されているキャラキャラという鳴き声とは全く異なる鳴き声は、縄張り主張の鳴き方だからだろうか？

十年以上も放置されていた校舎や校庭には色々なゴミや破損したままの器物が転がっている。ハンザキ研の主としては放置しがたいので、一人でできる整備はポツポツと進めている。荒れるに任せたままでは落ちつかないのだ。台風で転倒したのか大きな倉庫が天を仰いでいるのにはさすがに手が出ない。水源No.1の受水施設の整備も時々には行わねば落ち葉が溜まったり砂泥の堆積があるので、見回りは欠かせない。受水槽の水を滅菌するための次亜塩素酸の点検もある。校庭にあった池は水が無かったので水源No.2からのホースを分岐させて給水を始めたが、水量が頼り無い。受水施設のある猪ノ子谷をチェックすると配管が外れかけていた。満水になった池の中ではどこから来たのか3匹のイモリが盛んにプロポーズ行動をしていた。川からは十疋の高低差は十分にある池で時々降雨で濡ることはあってもほとんど水無しであったはずである。モリアオガエルやヒグサンショウウオの産卵があればいいなどの思いで給水を始めたのであるが、一足先にイモリの幼生を見ることになりそうだ。ワサビを見つけて植え込んだし、自宅の庭に繁茂させていたセリの移植栽培、ミョウガの植えつけもした。間もなくサンショの新芽も楽しめるだろう。

独立家屋の研究所は、基本的には調査時の生活空間である。3月末に75のダンボール箱の資料をNPOのスタッフに搬入してもらったが、ここには納めることができない。この後も同程度の量の蔵書類の搬入を数回は予定しているからだ。研究所の充実に続く第2段階の整備目標として目下、教室の借用願いを提出中である。とりあえずの使用範囲は、1階の西半分だがどのように収まりが付くのか心もとない。調査用具の置場も確保しておかないと濡れた用具を干したり修理したりの外にも、予備の装具や作業着の準備も必要である。旧・職員室は研究室兼集会室としての整備を考えている。十数人程度のミーティング・テーブルも旧・和田山町役場の備品だった。隣の部屋は図書室にして蔵書を納めたいと考えているが納まりきるかどうか心配だ。一体、飼育係として何冊の本を集めたのか、またその内のどの程度を読みこなすことが出来ていたのかも興味のあるところだ。

さらに東隣の部屋は資料収蔵室と調査用具室にしたい。学校の玄関を入ると下駄箱が並んでいるが、雪の多い土地柄から長靴用の縦長のスペースは丁度A-4サイズの本が入るので、これも本箱として活用するつもりだ。エントランス・ホールには十数年前に姫路市立水族館でオオサンショウウオの企画展の時に使用したパネル類や県・豊岡土木事務所が作成した出石川災害復興関連のパネル類を寄贈してくれたので、これらの展示室として整備を考えている。玄関から研究室へ至る廊下にはオオサンショウウオ関連のグッズ類や工夫してきた調査用具を並べて、本種への関心の度合いを高める工夫をしたいものだ。

コブシの花が咲き、サクラも下界から一足おくれて満開になり、今はツツジの鮮やかな薄紫の花が楽しめる。新緑も鮮やかで校庭のあちこちにモミジの芽生えがある。雑草と一緒に刈り取られないように移植をしておこう。色々なスマイレも咲き、昨年近畿一斉のタンポポ調査で抜け落ちていたと指摘された生野であるが、気づけば周辺にたくさん黄色の花を見せている。門外漢だが今年は地域の人々にも声を掛けてサンプリングに精を出そうと思っている。雑草と呼ばれる可憐な野の草花を使った生け花に挑戦している方も居て頼もしい。オダマキの風変わりな花形と蜜を吸い続けるマルハナバチ？も印象的だ。

学校の花壇にはハウズキが芽を出しているが、秋には橙色の実を多数見せていた。ウサギやシカからの食害を受けていないようだ。校舎内で真新しいキセキレイの死体を2つ見つけた、その外にもテントウムシにきれいに食われて骨格標本になった小鳥の死体も集めた。ストーブの煙突の孔の戸が開放されたままになっていたのも、ここから迷い込んだものかと思い全て閉めて回った。それにしても、教室の南側に吊るされているカーテンに群がっていたテントウムシの数の凄さには驚かされた。バラバラと豆まきの豆のように床に転がってきた数を見て、野外のテントウムシが絶滅するのではないかと思ったほどだ。

川ではカジカガエルの涼やかな美しい鳴き声が聞こえるようになった。構内の池の縁からはモリアオガエルのコールがあり、産卵が期待できそうだが先客のイモリが早くもやってきて待っている。それにしても、月末の調査期間中にはヤマセミの声を聴くことが出来なかったのは寂しいことで、やはり私の存在で追い払ってしまったのかと気がかかる。

私は修士課程からハンザキの研究を始め、栃本先生や兵庫県自然保護協会の大沼さん、川上さんとの運命的な出会いがあり、今ではどっぷりハンザキワールドに引き込まれています。修士の間は、大学のある堺から兵庫の篠山まで車で片道 2 時間かけてフィールドに出向き、96 回の調査を行いました。ハンザキの年周行動、特に繁殖期の遡上行動と農業用の取水堰による遡上阻害について調べました。次に疑問に思ったのが、ハンザキの終夜行動です。ハンザキは夜行性と言われますが、夜の何時にピークがあるのか、同じ個体が何日ごとに“狩り”に出てくるのか。これを調べることによって、現在行われている環境影響評価等のハンザキの調査方法を提言することができます。そこで、立てた調査計画が 10 日連続、夕方 18 時～朝 6 時に 2 時間おきに同じ所を踏査するというものです。自分で立てた計画ながら、1 日に計 7 回、夜通しのハードな調査で、これを実行するのはハンザキ研でしかない！と、栃本先生が送って下さったハンザキ研ニュースをみて思いました。

調査の場所は魚ヶ滝下流約 500m です。ここは、栃本先生をはじめとする姫路水族館のみなさんが 30 年以上メインフィールドにしているところで、個体識別のためのマイクロチップが入った個体も多く、捕獲を行わず棒リーダーと写真で識別するにはもってこいの場所でした。調査の途中、強風や雨、みぞれに襲われることもありましたが、アメニモマケズ、カゼニモマケズ…宮沢賢治を想いながら歩きました。それも、調査の合間にハンザキ研で暖を取り、燃料を補給できたのが大きかったと思います。ハンザキ研は実に快適な所で、水道、電気、ガス、風呂、トイレ、ストーブ、冷蔵庫…何でもそろっており、連続調査も何とかやり遂げることができました。特に、調査終了後、お風呂に入ることができるのは、この上ない幸せです。ご飯には、地域の方が栃本先生に差し入れしてくださったネギやシイタケで、単調な食事にアクセントが付き、おいしくいただきました。ありがとうございました。

調査の合間には、栃本先生と色々な話をして盛り上がりました。特にハンザキの話になると、話が尽きません。栃本先生は 30 年以上のキャリア。私も調査を始めて 2 年で、のべ約 1500 個体のハンザキを見ており、次から次にハンザキのネタが出てきました。ハンザキは特別天然記念物に指定されていますが、その生息地においても、悲惨な河川改修が行われている所がまだまだあります。どのように保全対策をとればよいのか、よく分かっていない生態がたくさんある中、地道な研究から一つ一つ解決していくことが必要です。ハンザキが夜行性であることや特別天然記念物であることから、調査にはハードルがいくつもあります。しかも、ハンザキの寿命は長く研究の成果がすぐにはでないこともあり、研究者は少ないのが現状です。しかし、ハンザキ研を拠点にし、これからできる限り調査を行っていきたいです。栃本先生が作られた基盤を次につなげるべく、頑張っていきたいです。

ハンザキ研日誌 2006年4月

- 1日：3月の25日からの調査を終えて姫路へ帰る。
- 5日：大阪府道路公社の箕面トンネル工事にかかわるオオサンショウウオに関する平成17年度調査結果の報告を受ける。
- 6日：先月末からの8日間のオーバーワークが祟ってダウンする。7夜中で1夜しか川に入らなかったのは、天候のためもあるが昼間の作業で張り切りすぎたこともある。戻ると春休み中の3孫の相手を楽しんだが、ついに体の方がストライキを起こし、有史？以来初めての3日間に及ぶ休肝日となってしまった。
- 14日：日本工科専門学校の初授業で、学生は昨年以上の14名となる。
- 17日：GS-199（199回目の調査）～19日。大阪府立大学の博士過程1年生田口勇輝さんが連続10日間の終夜観察を開始する（～26日）。
- 22日：地元の黒川地域協議会の役員会がハンザキ研で開催される。7役員と朝来市、NPO5名の計13名で協議会の正式発足へ向けて討議。
- 24日：朝来市環境学習センター（仮称）の施設建設に向けた助成金（リバーフロント整備センター）現地打合せが行われた。今年度の整備の第一歩となる。キタイ設計の柿本主任が社外業務としてオオサンショウウオ調査に2夜参加。～26日までGS-200の記念すべき調査実施。田口さんの調査終了。

ハンザキ・グッズ・コレクション

2)岡山県

- ①真庭市湯原町：[はんざき屋工房]:レプリカ（陶製で大小2点）・灰皿・土鈴・箸置き
- ② 同：はんざき張り子（三井彦四郎伝説・紙製）
これは、オオサンショウウオの調査を開始するべく、昭和50年頃に先達の地を訪れた時に入手したもので、今は造られていない貴重品である。
- ③ 同：[はんざきセンター]:スタンプ・鯉大名神（写真参照）
- ④ 同：[湯原ふれあいセンター]:“やる気! の湯原”レリーフ
- ⑤湯原観光協会：毎年8月7～8日は“ハンザキ祭り”大オオサンショウウオの山車の引き回しがあります。
- ⑥蒜山高原センター：OH!サンちゃんシリーズ
〔はなしませんマスコット〕青・桃色・黄色・白・銀色・茶色
〔おこづかい入れ〕
〔はなしませんシール〕
〔箱入りサンちゃん〕
- ⑦その他：スプーンレスト・キーホルダー（陶器）



写真1 史跡ハンザキ大明神



写真4 エントランス・ホールはパネル展示室に



写真2 旧・職員室のハンザキ研究室



写真5 グッズ・コーナーのハンザキ張り子



写真3 下駄箱活用の本箱



写真6 霧に巻かれつつ9夜連続徹夜調査中の田口さん

